

佳作

「ママありがとう」

熊本県 上天草市立上小学校 三年 甲田 葵

私は、ひみつのポケットを持っています。小さいころから、大切なものはポケットにしまいなさいとママが言っていました。

「こまった時、そつとポケットをたたいてごらん。きっと、はなをまもってくれるから。」
そう言って、ママはいつもなきむしの私をだきしめてくれます。

お友だちのれいちゃんと、自転車であそんでいたら、れいちゃんがごろんでなきだしました。ひざからちがでて、とてもいたそつです。どつしたらいいのかわからなくて、私もいつしよになきました。

ポケットの中に手をいれてみると、ハンカチとあめ玉がはいつていました。5才の私には、とてもふしぎな出来事でした。家に帰ってママにきいてみると

「きつとかみ様からのプレゼントね。」
とわらっていました。

そして私は、小学三年生になりました。一度だけ、学校へなんか行きたくないと思つたことがあります。その時ママは、

「おいしいもの食べに行こうか。」
と言つて、私をえい画館につれて行きました。私は、びっくりしました。それまでママは、私がかぜをひいた時も、ねつが39度ある時も、一度も仕事を休んだことがなかったからです。えい画をみながら、私の手をポケットの中でしたっきりと、にぎりしめてくれました。

「たまにはいいね。ずる休み。」
と言つてわらうママが、はなは大好きです。

「ママ、ありがとう。明日から学校、いくからね。」

「こころの中でつぶやきました。ママが一番大切にしているもの、それは、私なんです。」